Canon EF LENS

EF800mm f/5.6L IS USM



IMAGE STABILIZER

ULTRASONIC

JPN

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

EF800mm F5.6L IS USMは、手ブレ補正機能を備えた、EOSカメラ用高性能超望遠レンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- USMはUltrasonic Motor（超音波モーター）の略称です。

特長

1. シャッター速度換算で、約4段分*の手ブレ補正機能を備えています。
   また移動する被写体の流し撮りに効果を発揮する手ブレ補正モード2も備えています。
2. 蛍石レンズ、スーパーUDレンズとUDレンズを採用することにより、優れた描写性能を実現しています。
3. 超音波モーター（USM）搭載により、高速で静かなオートフォーカスを実現しています。
4. オートフォーカスモード（ONE SHOT AF時）のまま、合焦後にマニュアルでピント調整ができます。
5. オートフォーカス作動を一時中断することができる、AFストップボタンを備えています。
6. 事前に記憶させておいた位置に、瞬時にピントを合わせることができる、フォーカスプリセット機能を備えています。
7. 円形絞りの採用により、なめらかで美しいボケ味が得られます。
8. エクステンダーEF1.4X II/EF2X IIが使用できます。
9. 密閉構造の採用により、優れた防塵・防滴性能を備えています。
10. 主要部分にマグネシウム合金を採用した軽量設計になっています。

*［1/焦点距離］秒を基準にしています。
一般に手ブレを防ぐためには「1/焦点距離」秒以上のシャッター速度が必要といわれています。

本文中のマークについて

 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。

 基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

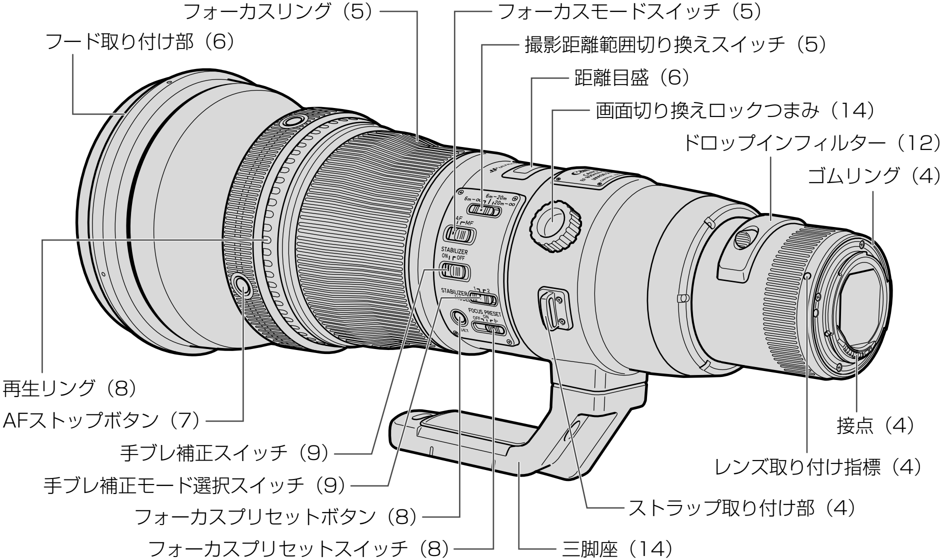
⚠ 安全上のご注意

- **レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。**視力障害の原因となります。
  特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因になります。
- **レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラを日光の下にレンズキャップを付けないまま放置しないでください。**太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。
- **レンズケースの上には乗らないでください。**
  転倒してケガをすることがあります。
- **レンズケースを積み重ねないでください。**
  倒れてきてケガをすることがあります。

取り扱い上のご注意

- **レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。**そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。**レンズの故障の原因になることがありますので、このような場所にレンズを放置しないでください。**

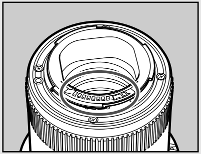
各部の名称

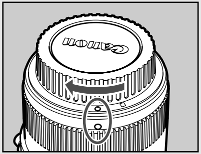


（＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

1. レンズの着脱

レンズの着脱方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

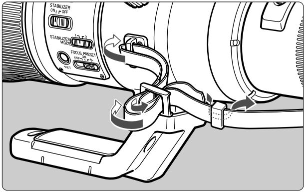




● レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
● 接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となることがあり、カメラやレンズが正確に作動しないことがあります。
● 汚れや指紋などが付着した場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
● レンズを外したときは、ダストキャップを付けてください。取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの○の指標をあわせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。

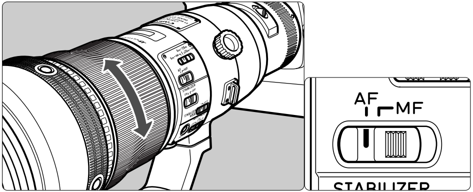
このレンズでは、防塵・防滴性能を向上させるため、マウント部にゴムリングを採用しています。レンズの着脱を繰り返すと、カメラ本体のマウントの外周部分にゴムリングの細い擦れ跡が付くことがありますが、使用上の問題はありません。
なお、ゴムリングはキヤノンサービスセンターで交換できます。（有料）

ストラップの取り付け方



ストラップの先端を、ストラップ取り付け部に通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。ストラップを引っぱって、留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

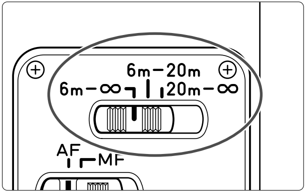
2. フォーカスモードの設定



オートフォーカス（AF）で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。
マニュアルフォーカス（MF）で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを回します。
フォーカスリングは、フォーカスモードに関係なくいつでも動かせます。

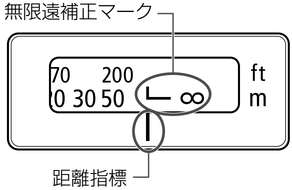
カメラのAFモードがONE SHOT AFのときは、AFでピントを合わせたあと、シャッター半押し状態でフォーカスリングを回すと、任意にピントを調整できます。（フルタイムマニュアルフォーカス）

3. 撮影距離範囲の切り換え



6m-∞、6m-20mまたは20m-∞の撮影距離範囲をスイッチで選べます。撮影距離に応じた設定にすることで、AF作動時間が短くなります。

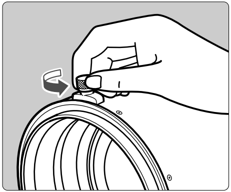
4. 無限遠補正マーク

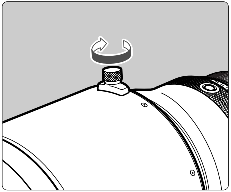


温度変化によるピント移動を補正するため、無限遠（∞）位置に余裕を持たせてあります。
常温の無限遠位置は、Lマークの縦線と距離指標が合うところです。

> 無限遠の被写体に、MFで正確にピントを合わせる場合は、ファインダーで確認しながらフォーカスリングを回してください。

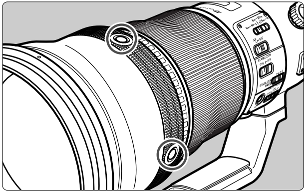
5. フード





レンズフードET-155は、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。
フードを取り付けるときは、フードのロックつまみを反時計方向に回してゆるめます。フードをレンズのフード取り付け部にあわせ、ロックつまみを時計方向に回して確実に固定します。
フードを外すときは、逆の手順で行います。

6. AFストップボタン



AF作動中にAFストップボタンを押すと、AFを一時中断することができます。

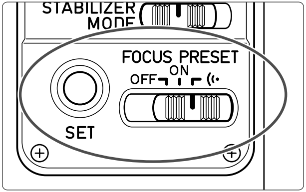
シャッターボタンを半押しした状態で、AFストップボタンを離すと、AFが再開します。

- EOS 630, RT, 5,10使用時に、AFモードがAI SERVO AFで、フィルム巻き上げモードが連続撮影のときは、AFストップボタンを離してもAFが作動しません。シャッターボタンを半押ししなおしてください。
- EOS 5, 10使用時にスポーツモードを選択したときは、AFストップボタンを離してもAFは作動しません。シャッターボタンを半押ししなおしてください。

- AI SERVO AFでの撮影中にも有効です。
- カメラのカスタム機能により、AFストップボタンの機能を変更することができます。詳しくはカメラの使用説明書を参照してください。

7. フォーカスプリセット

任意のピント位置をレンズに記憶させておくと、他の被写体を撮影していても、瞬時に記憶させたピント位置に戻すことができます。フォーカスモードがAF/MFのどちらでも使用できます。

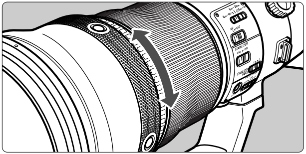


設定

1 フォーカスプリセットスイッチを ON または ((• にします。

2 シャッターボタンを半押しし、記憶させたいピント位置に合わせます。

3 フォーカスプリセットボタンを押します。
- ピント位置が記憶されます。
- フォーカスプリセットスイッチが ((• にあるときは“ピッ”という電子音がします。



再生

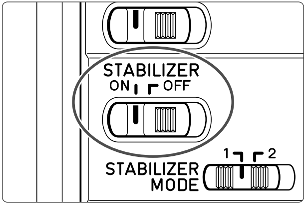
再生リングを左右いずれかに回転させたまま、シャッターボタンを全押しして撮影します。
- 記憶させたピント位置に戻ります。
- フォーカスプリセットスイッチが ((• にあるときは“ピピッ”という電子音がします。

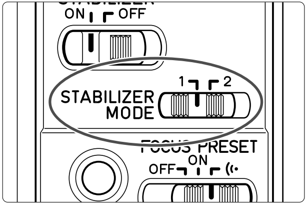
- 再生リングを回すときは、シャッターボタンから指を離してください。AFモードがONE SHOT AFのときは、露出はシャッターボタンを半押ししてピントが合ったときにロックされますので、シャッターボタンを半押ししたまま再生リングを回すと、露出が適正にならないことがあります。
- フォーカスプリセットを使用しないときは、スイッチをOFFにしてください。

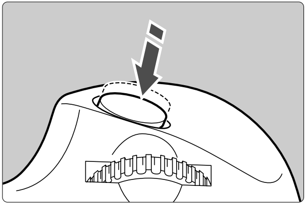
次のときは距離目盛が一瞬左右に少し動きますが、撮影結果への影響はありません。
・フォーカスプリセットボタンを押したとき
・再生リングを回転させたとき

8. 手ブレ補正機能の設定

手ブレ補正機能はフォーカスモードがAF/MFどちらの場合でも使用できます。







1 手ブレ補正スイッチをONにします。

● 手ブレ補正機能を使用しないときはOFFにします。

2 手ブレ補正モードを選択します。

● MODE 1：すべての方向の手ブレを補正します。主に静止した被写体の撮影で効果を発揮します。

● MODE 2：水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。

3 シャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正機能が働きます。

● ファインダー像が安定したことを確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します。

9.手ブレ補正機能の有効な使い方

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ちまたは一脚を使用した撮影で効果を発揮します。

●MODE 1



ON

OFF

- 夕景など、薄暗い場所
- 舞台など、ストロボ撮影が禁止されている場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使用できない状況

●MODE 2



ON

OFF

- 移動する被写体を流し撮りする場合

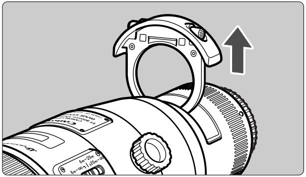
手ブレ補正機能の有効な使い方

- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- バルブ（長時間露光）撮影のときは手ブレ補正スイッチをOFFにしてください。ONにすると手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 次のような状況では、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
  - 大きく揺れ動く乗り物から撮影するとき
  - MODE 1で、カメラを大きく動かして流し撮りをするとき
  - MODE 2で、流し撮り以外の撮影をするとき
- 手ブレ補正機能を使用すると、通常より電力が必要なため、撮影可能枚数が少なくなります。
- シャッターボタンから指を離しても、約2秒間は手ブレ補正が作動しています。この間はレンズを外さないでください。故障の原因になります。
- EOS-1V/HS, 3, 7, 7s, 55, Kiss III, Kiss III L, IX E, D30のセルフタイマー撮影では、手ブレ補正機能は作動しません。

- 三脚を使用した場合もブレ補正効果が得られます。ただし三脚の種類や撮影条件により、手ブレ補正機能をOFFにした方が良い場合があります。
- 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果があります。
- 手ブレ補正機能はエクステンションチューブEF12 II/EF25 IIを使用しても作動します。
- エクステンダーEF1.4X II/EF2X II 使用時は、次のカメラで手ブレ補正が使用できます。
  EOS-1Ds Mark III, EOS-1Ds Mark II, EOS-1Ds, EOS-1D Mark III, EOS-1D Mark II N, EOS-1D Mark II, EOS-1D, EOS 40D, 30D, 20D, 20Da, 10D, 5D, Kiss X2, Kiss デジタル X, Kiss デジタル N, Kiss デジタル, D60, D30, EOS DCS1, DCS3, D2000, D6000, EOS-1V/HS, EOS-1N/DP/HS/RS, 3, 7, 7s, 55, 3000, Kiss, New EOS Kiss, Kiss III, Kiss III L, Kiss 5, Kiss 7, Kiss Lite, IXE, IX50
- カメラによっては撮影後などに像ゆれが発生することがありますが、撮影への影響はありません。
- カメラのカスタム機能でAF作動操作を変更したときは、変更後のAF作動ボタン操作でも手ブレ補正機能が作動します。

10. ドロップインフィルター

本レンズには、ガラスフィルター付きのドロップインゼラチンフィルターホルダー52が付属しています。ゼラチンフィルター（市販品）をホルダーにはさんで使用できます。



着脱

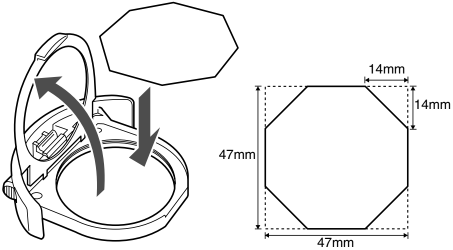
取り外しは、左右のロック解除ボタンを押しながら、まっすぐ上に引き抜きます。

取り付けは、“カチッ”と音がするまで押し込みます。

● 前後どちらの向きでも構いません。

本レンズはガラスフィルターを含めて光学設計されていますので、ゼラチンフィルターを使用しないときにも必ずドロップインゼラチンフィルターホルダーを装着してください。

ゼラチンフィルターの使用



1 ホルダーの押さえ板を持ち上げます。

2 ゼラチンフィルターを図のように切り、ホルダーに乗せます。

3 ホルダーの押さえ板をもとの位置に戻します。

別売でドロップインスクリューフィルターホルダー52、ドロップイン円偏光フィルターPL-C52が用意されています。

11. エクステンダー（別売）

エクステンダーEF1.4X II/EF2X II 使用時のレンズ仕様は次のようになります。

項目		EF1.4X II 使用時	EF2X II 使用時
焦点距離（mm）		1120	1600
絞り数値		F8-45	F11-64
画角	対角	2° 10′	1° 30′
	垂直	1° 10′	50′
	水平	1° 50′	1° 20′
最大撮影倍率（倍）		0.2	0.28

- エクステンダーEF1.4X II 使用時は、MFになります。ただしカメラがEOS-1Ds Mark III、EOS-1Ds Mark II、EOS-1Ds、EOS-1D Mark III、EOS-1D Mark II N、EOS-1D Mark II、EOS-1D、EOS-1V/HS、EOS-3のときは、中央部測距点でのみAF撮影ができます。
- エクステンダーEF2X II 使用時は、MFになります。
- レンズにエクステンダーを取り付けた後、カメラに取り付けてください。取り外しは逆の手順で行ってください。先にカメラを取り付けると、まれに誤作動することがあります。
- エクステンダーは重ねて使用できません。
- EOS 5で撮影するときは、EF1.4X II では－1/2段分、EF2X II では－1段分の露出補正をしてください。

エクステンダーを使用したときは、制御性を考慮してAF速度を遅くしています。

12. エクステンションチューブ（別売）

エクステンションチューブEF12 II/EF25 II を使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

	撮影距離範囲（mm）		撮影倍率（倍）	
	近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	5466	51418	0.16	0.02
EF25 II	4982	24356	0.19	0.04

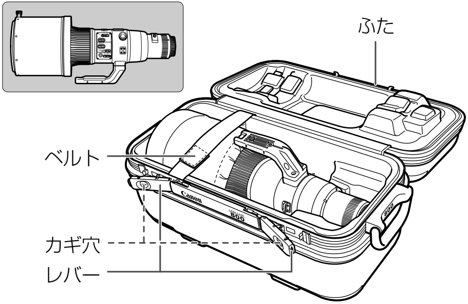
正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

13. 三脚座の使用方法

レボルビング（回転）

三脚座の画面切り換えロックつまみをゆるめると、カメラごと任意に回転させて画面の縦位置と横位置が変えられます。

14. ケース



収納は次の手順で行います。

1 フードを逆向きにかぶせ、レンズキャップを付けます。フードのロックつまみは上の左図のように三脚座と反対方向にしてください。

2 上の右図のように三脚座を真上にしてケースに入れます。

3 ベルトでレンズをしっかり固定します。

4 ふたを上から押さえながらレバーを押し、カギをかけます。

主な仕様

焦点距離・明るさ	800mm F5.6
レンズ構成	14群18枚
最小絞り	F32
画角	対角 3°5′、垂直 1°40′、水平 2°35′
最短撮影距離	6m
最大撮影倍率	0.14倍
画界	約171×256mm（6m時）
フィルター	ドロップイン52シリーズ
最大径×長さ	163×461mm
質量	4500g
フード	ET-155
レンズキャップ	E-180C
ケース	レンズケース800

- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。キャップおよびダストキャップをつけたときの長さは表示寸法+26.5mmになります。
- 大きさ・質量は本体のみの値です。
- クローズアップレンズ250D/500Dは装着できません。
- 絞り値はカメラ側で設定します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造終了後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、キヤノンサービスセンターにお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノン EFレンズホームページ

canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

050-555-90001（直通）

受付時間〈平日〉9：00～20：00〈土/日/祝〉10：00～17：00〈1/1～3は休ませていただきます。〉

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は03-3455-9353をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon

CT1-7581-002

2009.7